



時代の要請によるピアノの進化

有限会社藤井ピアノサービス
代表取締役 藤井 幸光

今までのアップライトピアノには、グランドピアノに比べ重大な“欠点”と言っては言い過ぎかも知れませんが“弱点”がありました。それは表現力の乏しさ、連打性の不足、音質の貧弱さ。これでは時代の要請についていけません。ピアノの世界も他と同じく若年齢のハイレベル化が進んでいます。40～50年前、受験のため高校生が練習していた曲を、今では中学生が、下手すると小学5～6年生が練習しています。作曲家の時代で言うとベートーベンの中期以降の曲は、グランドピアノがレペティション(連打のため)装置を備えたもので作曲されています。練習曲でもツェルニー30番からはレペティション装置が付いていなければ楽譜を忠実に再現する事は大変難しい、いや不可能と言っても過言では無いかも知れません。当社が開発したグランフィール技術は、アップライトピアノに世界で初めてグランドピアノ並みのレペティションシステムを備え付け、商品化を実現しました。

弊社は昭和60年、薩摩川内市に店舗を構えて以来、ピアノ一筋、現在に至っております。一般家庭のピアノ調律や修理はもちろんのこと、店内には、ピアノの原点を発祥の地であるヨーロッパに求め、鹿児島県ではめずらしいヨーロッパピアノの展示や、ピアノが発明される前の楽器、チェンバロも展示してあり、バッハやスカルラッティが作曲した当時の音色を体験できます。3階の小ホールには、ヨーロッパの名器、ベーゼンドルファーやベヒシュタインなどを設置してあり、一流ピアニストを迎えての演奏会やジャズライブも実施しています。この環境はピアノを弾く子供たちやピアニストがかかえる悩み・要望を直に聞け、グランフィール開発の手掛かりとなりました。

開発にあたり県工業技術センターには大変お世話になりました。打鍵回数の試験をしたり、ハイスピードカメラでハンマーの動きを撮影したり、音の解析をしたりと到底我々が調べる事の出来ない事、技術、専門知識、情報をふんだんにご提供頂きました。それが昨年の発明大賞受賞につながったことは言うまでもありません。特にハイスピードカメラや音声解析装置の活躍は、その後の開発に大きなヒントを与えてくれ、ピアノの更なる向上に限界がないことを証明してくれました。

現在は、グランフィールの一層の発展とともに新たなアイデアの製品化に取り組んでいます。そしてまた、県工業技術センターの力をお借りし、開発技術を検証したいと思えます。



グランフィールピアノ